

保健だより 献血について

小山南高校 保健室

半袖を着ていたのがつい最近のようにも思いますが、季節が移ろい、今年があっという間に終わりそうですね。皆さんは12月の期末テストが終わればホッと一息でしょうか？

さて12/24に献血車が来ます。栃木県は高校生の献血率がとても高い県です。血液は人工的に造ることができず、献血により人々の命を救っています。この機会に2・3年生の皆さん、協力をお願いします！

12/24に献血車が来校予定です！

★血液は人工的に造ることができない！？

このままだと2027年には85万人分の血液が不足すると推測されています。

交通事故や病気の人に使用する血液は、科学技術が進歩した現代でも人工的に造ることができず、長期保存することもできません。そのため、輸血等に必要な血液を確保するためには私たち人間同士が血液を提供する以外に方法はありません。

★感謝の言葉

日本赤十字社のホームページに寄せられた感謝の言葉です。



【献血との出会い】

高校生の頃、学校に赤十字の方がいらして献血をしたことがあります(まさか自分が輸血のお世話になるとは思わず)。その頃(昭和40年代)はまだ献血をするということがそれほど多くなく、「若い人はこれからは時間があればどんどんお願いします。」と言われ、社会人になってからは献血カードを作り、8回までしたことを覚えています。

【善意から救われた命】

今自分が白血病という病に侵され輸血が必要になり、週に1回、多いときは2回するときもありました。皆さんが善意でされた献血の血液で、私の命を救っていただき本当に助かりました。もし輸血ができないと考えると、感謝しかありません。看護師さんに聞くと、北陸三県だけでなく、中京圏からも運ばれていることを知り、さらにありがたく思いました。今病状は落ち着き、一旦退院できるまでになりました。本当に皆様や赤十字の方、先生方の判断と輸血のおかげです。感謝しかありません。また病気が再発して輸血が必要になるかもしれませんが、病気と前向きに戦い、負けないように頑張りたいと思います。本当に輸血に携わる方には頭が下がる思いです。本当にありがとうございました。

★栃木県の献血ルーム

栃木県赤十字血液センター	栃木県宇都宮市今宮 4-6-33
うつのみや大通り献血ルーム	栃木県宇都宮市大通り 2-1-5 明治安田生命ビル 1階

参考：日本赤十字社 HP

★献血の歴史



1930 年

浜口首相が東京駅で凶漢にピストルで撃たれ、駅長室で輸血を行い、一命をとりとめました。この出来事が大きな関心呼び、輸血が一般的に行われるきっかけとなりました。

1948 年

東大病院で輸血による梅毒感染がおこります。この事件は大々的に報道され大きな問題となりました。そこで厚生労働省は日本赤十字社、東京都、日本医師会などの代表者に対し本格的に血液事業に取り組むよう指示を出しました。

売血の時代(1945 年～1960 年代前半)

日本赤十字社が献血事業を正式に開始した前後で民間の商業血液銀行が誕生します。この商業血液銀行とは血液を売買し利益を得るもので、安全性もあまり高くありませんでした。自分の血液を売る多くの人は定職につけない人が多く、中にはお金のために 1 カ月に 70 回以上、売血をした人がいたとされています。また健康を害するほど売血を繰り返した人の血液は輸血としての効果も少ないばかりか、輸血後肝炎なども引き起こし大きな社会問題となりました。



売血が大きな問題となったことで、国は 1964 年に輸血用の保存血液は献血により確保することを決定しました。その後民間の血液銀行は撤退し、日本赤十字社が輸血用血液の採取から供給のすべてを行うようになり、今日に至っています。

しかし・・・

世界では家族やそれに代わる人からの血液提供、もしくは売血により、必要な血液の 50% が賄われている国が 54 か国もあり今日でも『無償の献血』、『安全な献血』は当たり前ではありません。

参考：日本赤十字社 HP

貧血を予防しよう

貧血状態が長く続けば心臓や肺に負担がかかります。貧血が引き起こす酸素不足は、全身や脳の健康にとっても好ましいものではありません。規則正しい生活・食事を心がけ貧血を予防しましょう。

貧血を予防する食べ物



貝類



大豆



緑黄色野菜



レバー



牛肉の赤身



まぐろ